

学校教育計画（令和6年度～令和9年度）

学校名	県立百合丘高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制・普通科
-----	-----------	------------------	---------

1 学校のミッション

○ 全日制の課程学年制普通科を設置する高校として、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえ、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えるよう、学力の育成、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。

○ 広く社会に貢献し主体的に行動できる心豊かな人材の育成をめざし、学校行事の活性化等、学校の教育活動全体を通じて、生徒自らが主体的に行動する意欲を高められるよう教育活動を展開する。

○ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことができるよう、主体的・対話的で深い学びを推進する。特に、生徒が主体的に思考し、他者と協働することで思考を深める学習の機会を設けるなど、不断の授業改善の実施等、教育活動の充実に取り組む。

2 学校教育目標

○多様化する社会のニーズに対応する「しなやかさ」をもち、困難な課題にも協働しながら「たくましく」臨んでいく「社会実践力」「自己肯定感」を育成する。

○自己実現を図る生涯学習者としての態度を育成し、主体的にグローバル社会の形成に参画するための進路選択を促す。

○課題を多角的に探究し、本質をとらえ、論理的に解決することのできる思考力・判断力・表現力等を育成する。

○「自らが社会の創り手となる」という強い責任感のもと、自立・躍動・躍進し、かつ自分と他者とのウェルビーイングを追求する態度を育てる。

○社会に開かれた教育課程の実現のため「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」づくりを推進する。

3 計画策定時点での課題

○生徒は明るく素直で真面目であるが、自己肯定感が低く、自信のなさから持っている能力を生かしきれておらず、主体性に欠け周囲に流される傾向がみられる。ほとんどの生徒が上級学校への進学を目指すものの、最終的には「行きたい学校」でなく「行ける学校」で進路を決定している生徒が多くみられる。

○学習指導や生徒支援等においては、各教員はとても熱心である。しかし、旧態然とした個業文化が根強く残り、組織的な指導・支援体制が確立していない。また、生徒の主体性や思考を促し力を引き出す指導・支援よりは、「教える」指導が中心となっている。

○地域等との連携においては、小中学校や自治会はもとより、大学や商店会、また同窓生には経済界で活躍している方もおり、本校の教育活動に有用な環境があるにも関わらず、その素材を生かし切れていない現状が見られる。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成に努め、質の高い学びを実現し、生徒が自らの個性・能力を伸張する高い意識を持って学習するカリキュラム・マネジメントを進める。 ・国際理解教育の推進及びグローバル人材の育成を図り、持続可能な社会の創り手として学び続ける自立した学習者を育成する。 ・学校行事や生徒会活動等においては生徒が主体的に取り組み、生徒中心の行事となる取組を促進し、他者に影響を与え、学校や社会に貢献できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが課題を見出し、解決する力を養うための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、探究活動や言語活動を重視した授業改善を行う。 ・生徒による授業評価や外部試験の結果など、生徒の実態を把握した上で、それらを生かした授業研究の深化を図る。 ・生徒が自身の自己肯定感の向上を図り、主体的に行動できるよう行事組織や委員会組織を改善する。また、その運営を生徒が責任をもってやり切る支援体制を作る。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの個性や実情に応じてそのニーズに応え、多様な可能性を延ばす支援体制の充実を図る。 ・困難を抱える生徒を支援につなぎ、誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた支援体制の構築を図る。 ・規範意識を養い、安全・安心な学校生活を保障し、自尊感情や自己効力感を高め、自他を尊重する心を育み、ウェルビーイングの実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性へ対応するため、教育相談体制の充実を図るとともに、生徒一人ひとりの長所や強みを見出すような支援を行う。 ・生徒自らが計画する研修や探究活動、行事や委員会活動を通して、人権教育、道徳教育を推進し他者を尊重する態度を育成する。 ・いじめを含む問題行動及び不登校等の早期対応のための組織作りやマニュアル改訂に取り組むとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携したチームによる支援体制を構築する。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・予測不可能な時代の中でも、活躍することのできる人材の育成を図る。 ・生徒自らのキャリア形成を意識できる進路活動の充実を図り、より高い進路目標設定が行える指導・支援を推進するための体制を構築する。 ・将来の自分のキャリアに責任を持ち、生涯にわたって学び続ける学習者としての基盤を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を見出し・保護者等のニーズを把握し、持続的な地域コミュニティの基盤を形成し、生徒と地域等で連携し、探究活動を行う。 ・生徒一人ひとりのキャリア・パスポートを踏まえ、社会的・職業的な自立に向けて必要となる資質・能力を身に付けるため、探究活動・職場体験・インターンシップを促進する。 ・コンソーシアムサポーターを活用するなど、生徒の希望する体験先の充実に取り組む。

4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者等と連携・協働し、学校の教育力の向上を図るとともに、地域に親しまれる学校作りを進める。 ・コミュニティ・スクールの取組の推進により、地域の教育力の活用や産学協働体制の構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した生徒の探究活動や教育活動を行うとともに、地域の学びの場づくりの推進、地域の教育力の活用の促進、及び生徒の活動の積極的な発信を行う。 ・学校運営に大学生や自治会・商店会や同窓会・PTAなどの地域人材を活用し、地域と連携・協働して教育活動の充実を図るとともに、学校の施設開放や公開講座等に取り組む。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・校務におけるコンプライアンスの徹底と不祥事防止の徹底により、信頼に根ざした学校づくりを推進する。 ・安心で快適な教育環境の整備のために、組織的・計画的な学校安全を推進し、激甚化・頻発化している自然災害や、事故・事件、犯罪などに備えて子どもたちが自らの安全を確保できる資質・能力を育成する。 ・働き方改革を一層促進するだけでなく、教師の個別最適な学びや協働的な学びを支える仕組みを構築し、教職員のウェルビーイングを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のワークライフバランスとそのキャリア形成のための対話による研修を充実させ、職員自らが自分のウェルビーイングの実現に取り組もうとする職員を増やし、教職の魅力の向上を目指す。 ・教師の指導力向上・ICT環境整備の更なる充実を促進し、デジタル教科書・教材・学習支援ソフトの活用に向けた取組の推進、クラウド活用による次世代の校務DXを通じた教育データの利活用を促進することで、学校における働き方改革を実現する。